

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(P1)	出典	概要
												細菌感染	第81回 日本感染症学会・学術講演会(2007年4月10-11日) W17-2	北海道から九州の6病院において肺炎患者を有する6名の患者のかつ痰または気管洗浄液から抗酸菌を分離し、分離菌の集落形態、培養・生化学的・分子遺伝学的性状並びにニコール酸のHPLCについて検討した。全ての分離菌は共通の集落形態、培養・生化学的性状を示した。分子遺伝学的にも高い相同性を示した。4つの分離菌株由来のニコール酸HPLC分析の結果、米国CDCのLibrary databaseにはない新種の抗酸菌と考えられた。
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: e64	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に存在する新規のポリオーマウイルスを同定し、WUウイルスと名付けた。WUウイルス遺伝子は529bpで、Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統遺伝学的分析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオーマウイルスとは異なっていることが明白となった。オーストラリア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例からWUウイルスが検出された。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci 2007; 104: 11424-11429	マレーシアMelakaで、高熱と急性呼吸器疾患に罹っていた39歳男性から未知のreovirusが分離され、Melaka virusと名づけられた。患者の家族も発症したが、この家族は発症前にコウモリと接触していた。遺伝子配列分析により、Melakaウイルスは1999年に同国Taman島のオオコウモリから分離されたreovirusであるPulauウイルスと密接な関係があることが示された。同島住民の血清スクリーニングで、109例中14例(13%)が両ウイルスに陽性であった。
												ウイルス感染	WHO/EPR 2007年8月3日	ウガンダで29歳男性がマールブルグ出血熱と確定診断された。この男性は2007年7月4日に発症し、7月7日に入院し、7月14日に入院した。この男性は6月27日に同様の症状を発症し、入院した職場の同僚の介護を行っていた。調査の結果、この職場では他に感染疑いが1例確認され、また6月中旬に病气となり、その後、回復した人が2例いた。